



Enterprise Architect 7.1feature guide

by SparxSystems Japan

Enterprise Architect7.1 機能ガイド

(2008/3/11 最終更新)

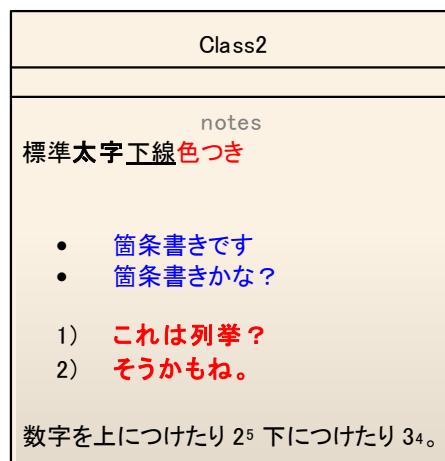
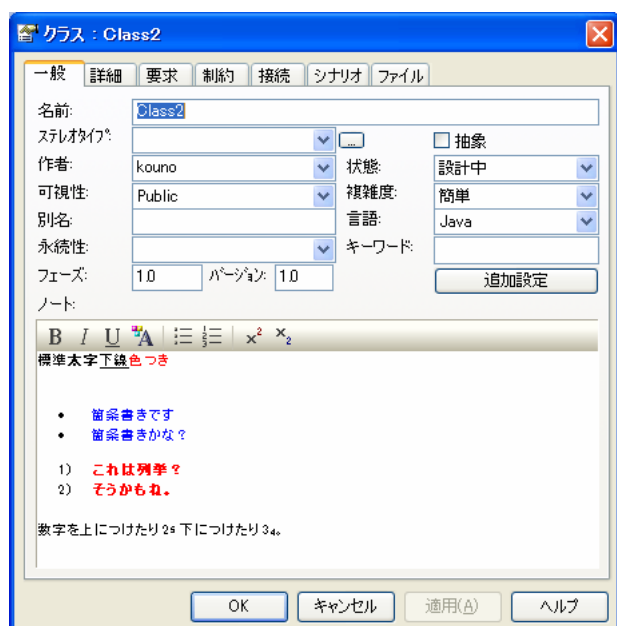


このドキュメントでは、Enterprise Architect7.1 で追加・改善される機能についてご紹介します。青色の説明は、Enterprise Architect7.1 での操作方法です。

要素のノートの表現機能の強化

今までは単なるテキストの文字列でしたが、以下の装飾が可能になりました。ダイアグラム内での表示や HTML や RTF ドキュメントでも適切に出力されます。

- ・ 太字/斜体/下線
- ・ 文字の色
- ・ 箇条書き(序列リスト・非序列リスト)
- ・ 文字の上付き・下付き



対象は次の項目です。

- ・ 要素のノート・要求・シナリオ
- ・ 接続のノート
- ・ ダイアグラムのノート
- ・ ノート要素・テキスト要素

上記右側の図のように、要素の区画としてリッチテキスト表示をする場合には、**対象の要素を右クリックして「特性の表示設定」を選択し、「ノートの内容を RTF で表示」にチェックを入れてください。**

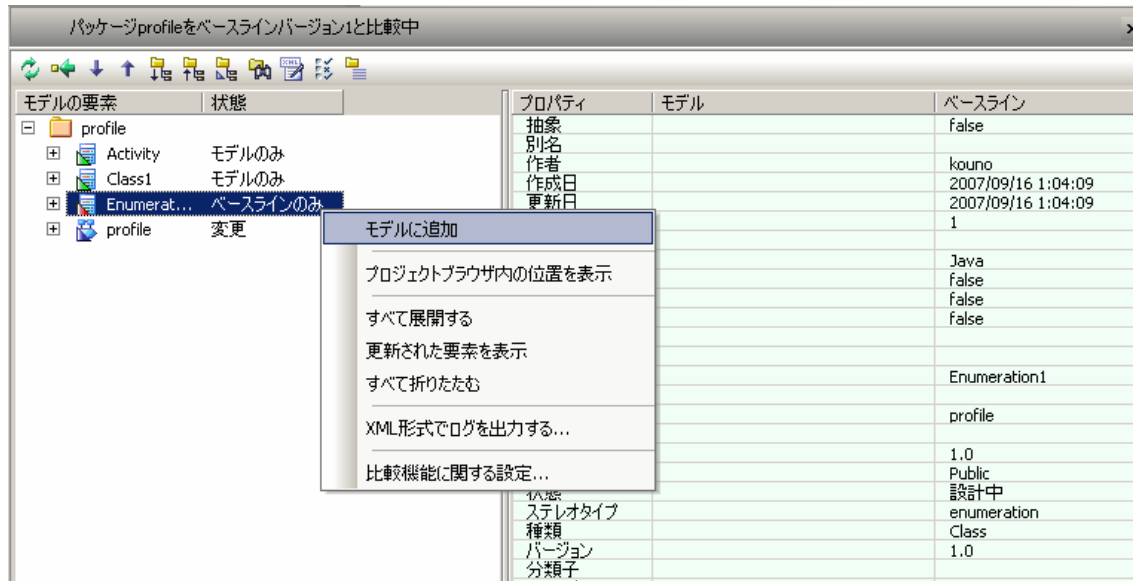
ベースラインのマージ(コーポレート版のみ)

ベースラインとして管理されている情報を要素の単位でマージできる機能が追加されました。これにより、過去のベースラインの一部を最新のモデルに反映することが可能になりました。この機能の概要および操作方法については、Web サイトで公開している「ベースライン マージ機能ガイド」やヘルプファイルをご覧ください。

なお、この機能は他の EAP ファイルにまたがっている場合やバージョン管理されているパッケージの履歴で

も利用可能です。例えば、ある EAP ファイルをコピーして複数の人で設計を行い、別々に設計した内容をこの機能でマージすることが可能です。

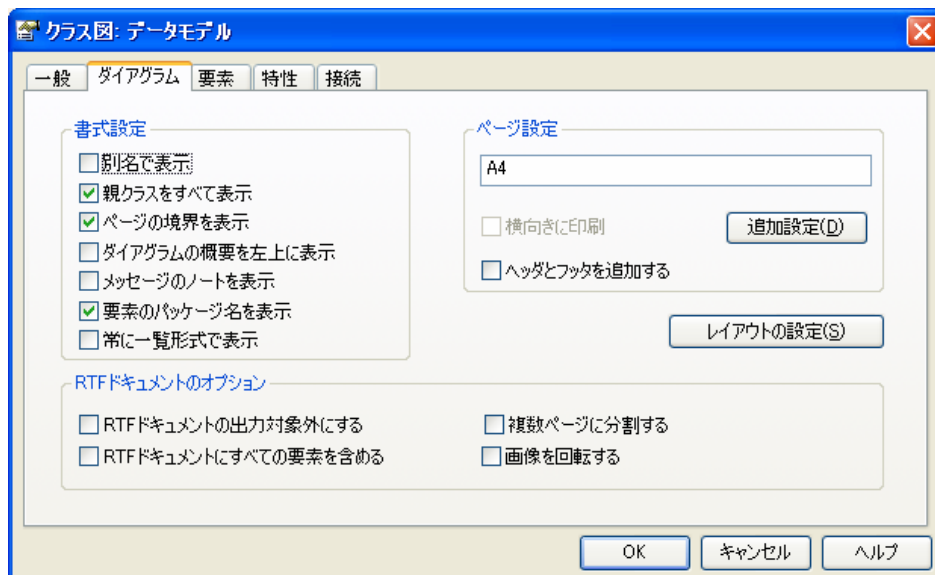
(マージする対象は、同じパッケージ(パッケージの GUID が同一)の中の要素やダイアグラムである必要があります。別のパッケージの内容をマージすることはできません。)



(対象のパッケージをプロジェクトブラウザで右クリックし、「パッケージのコントロール」→「ベースラインの管理」。ベースライン機能の一部として提供。)

ドキュメント生成時のダイアグラムの分割

RTF ドキュメントを生成する際に、シーケンス図などダイアグラムが大きい場合には、縮小されてドキュメントに出力されました。バージョン 7.1 では、ページにあわせてダイアグラムを分割したり、ダイアグラムの向きを変えて出力したりする機能が追加されました。この設定はダイアグラムごとに行います。



(対象のダイアグラムのプロパティダイアログを表示し、「ダイアグラム」タブにある「複数ページに分割する」「画像を回転する」にチェックを入れて、RTF ドキュメントを出力する)

「ビューブラウザ」サブウィンドウの追加

プロジェクトブラウザとして表示される内容をカスタマイズしたい場合に便利な「ビューブラウザ」サブウィンドウを追加しました。

- ・ 指定した検索ルールに一致する要素やダイアグラムを表示
 - 検索ルールとして新規に追加された「最近更新された要素」「最近更新されたダイアグラム」を利用すれば、指定した日数以内に更新された要素やダイアグラムを簡単に確認できます。また、同じく検索ルールとして追加された「自分がチェックアウトしたパッケージ」も便利です。
- ・ 個別に指定した要素やダイアグラムを表示
(検索結果やプロジェクトブラウザからドラッグ&ドロップで追加可能)
- ・ 表示されている要素をダイアグラム内にドラッグ&ドロップで配置可能



(「表示」→「ビューブラウザ」でビューブラウザサブウィンドウを表示)

状態遷移表機能の強化

バージョン 7.0 で追加された状態遷移表の機能に、「セルに注記」「状態遷移表の内容を CSV 出力」の 2 つの機能が追加されました。セルの注記機能は、現在のバージョンでは「I:無視(Ignore)」「N:不許可(Never allowed)」に固定されています。この機能により、状態遷移の漏れ抜けのチェックが容易になります。

また、CSV ファイルとして出力できることで、出力内容を Excel で整形したり、出力内容をさまざまな形で活用したりすることができます。

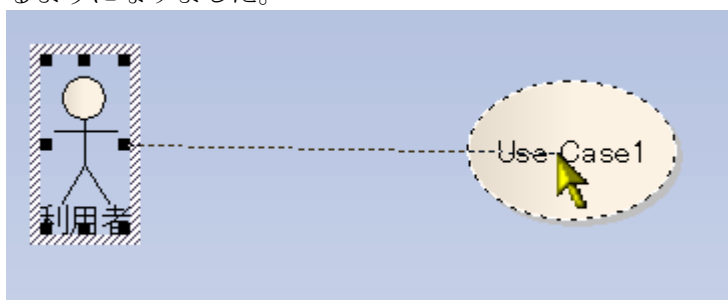
トリガ		無効なエントリ	有効なエントリ	<なし>
		E0	E1	E2
スタート	S0			S1
ログイン	S1	S1	[トライ<3> S2	S5
ログイン済み	S2	I	N	S3
終了	S3			
終了	S4			
ログイン拒否	S5			S4

(セルを右クリックし、「注記」でセルに注記を追加。状態遷移表の背景で右クリックして「状態遷移表を CSV ファイルに出力」で内容を CSV ファイルに出力。)

モデリング操作と表現の改善

より効率的なモデリングを行うために、クイックリンクで要素を選択する場合に、対象となる要素の外枠の表示が変わり、どの要素が対象になっているかを簡単に識別できるようになりました。

同様に、要素を別の要素の上に配置する場合にも、どの要素の上に乗せようとしているかを簡単に識別できるようになりました。

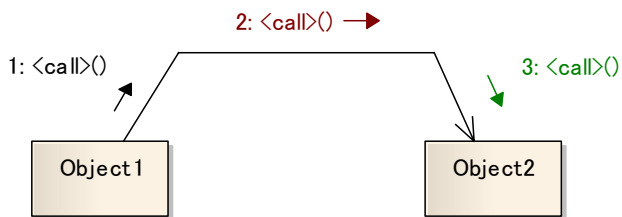


また、接続を新規に作成する場合に、作成中に SHIFT キーを押すことで、接続に頂点を追加することができるようになりました(この詳細は Web サイトに掲載している動画デモをご覧ください)。これにより、複雑な形の接続を簡単に作成できるようになります。

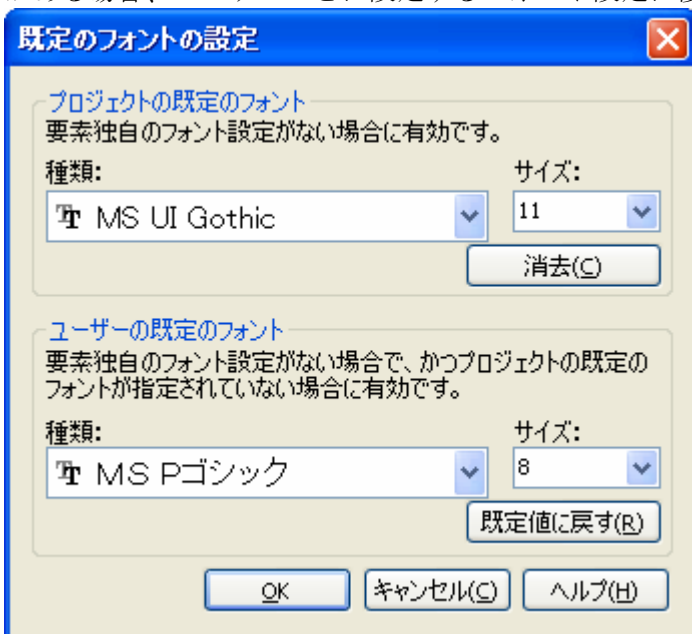
その他の機能強化・改善・変更

それ以外の主な機能強化・改善・変更項目は次のとおりです。

- ・ コミュニケーション図において、矢印の向きがバージョン 7.0 までは 4 方向に制限されていましたが、任意の方向に矢印が向くようになりました。

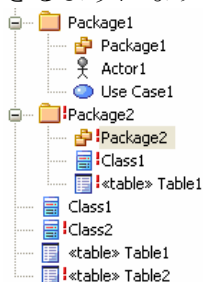


- ノート要素からノートリンクを接続やメッセージに向けて作成する場合に、対象の接続を選択した瞬間にノートリンクを表示することで、対象の選択を容易にしました。
(ノート要素を右クリックし、「追加設定」→「リンク先の設定」)
- プロジェクトファイルの既定のフォントを指定することができるようになりました。この既定のフォントがある場合、ユーザーごとに設定するフォント設定に優先します。

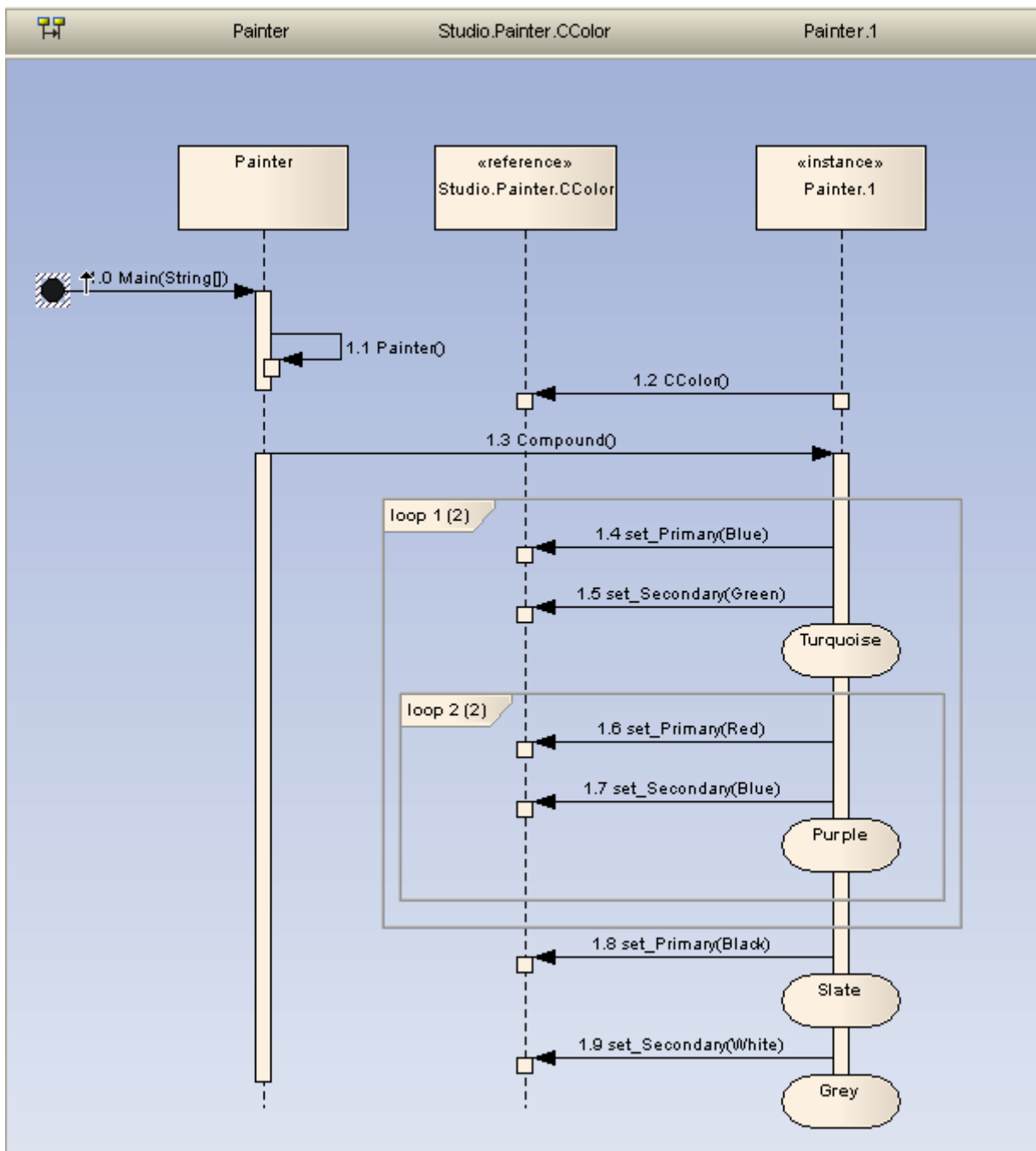


(オプションダイアログの「要素」グループで「既定のフォントの設定」ボタンを押す)

- 要素やダイアグラムなどが排他ロックされている場合に、プロジェクトブラウザでロックの状態を確認できるようになりました。

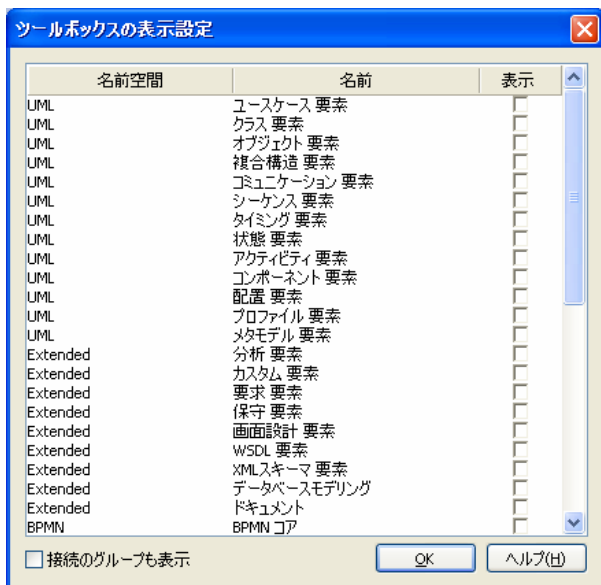


- 指定したパッケージに含まれる全てのパッケージについて、一括でバージョン管理の設定を行うことができるようになりました。
(プロジェクトブラウザでパッケージを右クリックし、「パッケージのコントロール」→「一括してバージョン管理に追加」)
- 入れ子でバージョン管理されている場合に、別のプロジェクトファイルにまとめて移動することのできる「ブランチファイル」の機能を追加しました。
(プロジェクトブラウザでパッケージを右クリックし、「パッケージのコントロール」→「ブランチファイルの出力」「ブランチファイルの読み込み」)
- シーケンス図の自動生成機能で、それぞれのライフラインの「状態」を自動的に解析し、状態の変化をシーケンス図内に表現できるようになりました。



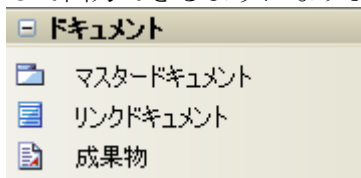
(対象のクラスの子としてステートマシン図を作成し、状態要素の制約として条件を指定するなど、いくつかの設定が必要です。設定方法の詳細はヘルプファイルをご覧ください。)

- ダイアグラムを、簡単に「一覧形式」で表示できるようになりました。
(ダイアグラムの背景で右クリックし、「要素一覧として表示」)
- より Enterprise Architect の画面を広く使うことのできる「全画面表示」機能を追加しました。
(メインメニューから「ウインドウ」→「全画面表示」)
- ツールボックスに表示されるグループを簡単に設定できるようになりました。

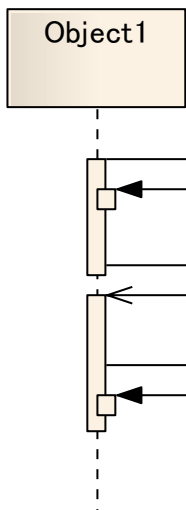


(ツールボックスの「別のグループ」→「ツールボックスの表示設定」)

- ダイアグラム内で **SHIFT**+右クリックした場合の表示内容を変更し、効率を向上しました。
- 仮想ドキュメントオブジェクト機能が強化され、複数の **RTF** ドキュメントをまとめて1つのファイルとして出力できるようになりました。また、ツールボックスに「ドキュメント」グループを追加しました。

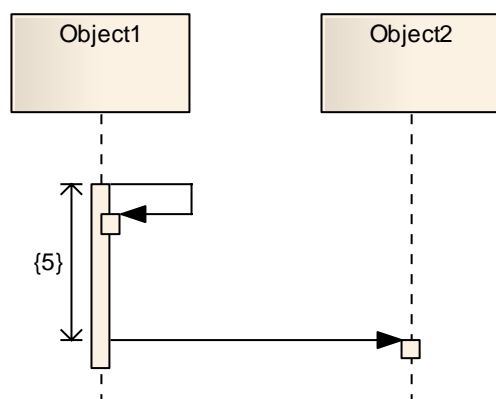


- シーケンス図で非同期の自己メッセージが表現できるようになりました。



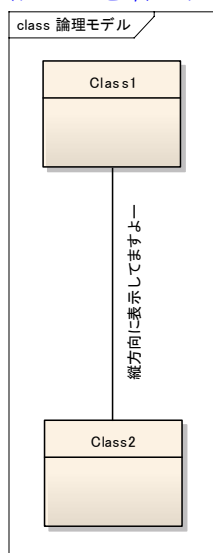
(自己メッセージを「非同期」に設定)

- シーケンス図で、メッセージ間の時間制約の表現に対応しました。作成した時間制約の表示は左右に移動することができます。



(メッセージを右クリックし「持続制約と時間制約」を実行し「メッセージ間の時間制約」に値を入れる。あるいは、メッセージを選択すると送信元に表示される矢印のアイコンを、範囲の終端となるメッセージまでドラッグする。)

- XMLスキーマで、他のスキーマを参照している場合の入出力に対応しました。
- ダイアグラム内に表示されているラベル(文字列)を縦方向に表示することができるようになりました。(ラベルを右クリックし、「ラベルの回転」→「回転(時計方向)」「回転(反時計方向)」)



- Enterprise Architect で設計したデータベース設計と、DBMS に構築されている実際のデータベースの内容を比較する機能が追加されました。
- Windows のファイルをダイアグラム内にドラッグすることで、簡単にショートカットや成果物要素を作成できるようになりました。
- ラベルの操作に対するさまざまな点を改善しました。F2 キーで直接編集・Undo/Redo・画面外に配置した場合にスクロールする・等
- スタートページに「ビギナーガイド」へのリンクを作成しました。ビギナーガイドでは、Enterprise Architect の基本的な操作方法を説明したヘルプファイルへのリンクがあります。また、Enterprise Architect のいくつかの機能呼び出すことができます。
- スパークスシステムズジャパンの Web サイトで公開している DFD(データフロー図)・フローチャートの MDG テクノロジーファイルを標準で搭載し、インストールしなくても利用可能になりました。また、既定の MDG テクノロジーとして「Web モデリング」を追加しました。

主なバグ修正(日本から寄せられたもののみ)

- ダイアグラムフレームが入れ子になっている場合のダイアグラムの読み込み速度を改善しました。★
- 状態遷移図において、状態や遷移を削除した場合の挙動を改善しました。★
- ベジエ曲線にした場合に、点線の接続が正しく表示されない問題を修正しました。★

- インターフェース要素間で汎化の関係をクイックリンクで作成できるようになりました。★
- シーケンス図を編集集中に別のシーケンス図を保存すると、編集内容が破棄される場合がある問題を修正しました。★
- 要素のシナリオの内容を更新した場合に、ダイアグラム内の関連付けられたノートの情報が更新されない問題を修正しました。★
- 描画スクリプト利用時に、見えないラベルが選択可能であった問題を修正しました。★
- 複数の要素を選択中に、誤操作をしても要素の新規作成にならないように改善しました。★
- ビジネスモデリング要素で、別名が表示されない問題を修正しました。★
- 要素に接続がない場合に自動レイアウト機能を実行した場合、ページの幅で折り返して要素を整列するようになりました。★
- トリガのノートについて、適切に DDL に出力するようになりました。★
- オブジェクト指向モードで C 言語のソースコードを読み込む場合に、複数のクラスが 1 つのファイルに定義されている場合の処理を改善しました。★
- ダイアグラムのためのレポートで、テキストの向きを出すオプションの設定を反映するようになりました。★
- コンポーネントの多重度を表示するように改善しました。★
- C++/CLI のソースコード生成において、プロパティの生成結果を改善しました。★
- ステレオタイプの同期機能で、メモ型のタグの値が初期化される問題を修正しました。★
-